

平成 26 年 11 月 26 日

関東ラグビーフットボール協会

会 長 貴島 健治 様

関西ラグビーフットボール協会

会 長 坂田 好弘 様

九州ラグビーフットボール協会

会 長 徳田 昇 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 矢部 達三



「競技規則第 9 条」についてのルーリング 2014-3 (競技規則の確認)
(通達)

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、IRB(現、ワールドラグビー)よりこのほど、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようお願い申し上げます。

敬具

記

スコットランド協会からの競技規則第 9 条に関するルーリング要請

スコットランド協会は、以下に記された、7人制ラグビーにおける競技規則第9条の解釈が、15人制にも拡大適用されるのかどうか、明確化を求めた。

7人制競技規則第9条

9. B.1 (e) - コンバージョンキックを行う

1. コンバージョンを選択するかしないかのチームの判断をレフリーに伝えることができる、または、伝えるべきなのは、誰なのか? 誰でもよいのか、または、キャプテン、トライをしたプレーヤー、あるいは、コンバージョンを行うプレーヤーでなくてはいけないのか? あるいは、それら

のプレーヤーの中の一人がレフリーから遠い位置にいてやりとりができないということであれば、それらの中の誰でもよいのか?

2. コンバージョンを行うか、プレーを再開させるかのチームの判断をレフリーに伝える際に、使わなければならない特別な言い方やシグナルはあるか?
3. チームがコンバージョンを行わず、代わりに、プレーの再開を選択できるタイミングの制限に関して、レフリーによるトライの認定に遅れがあり(すなわち、レフリーがプレーヤーの後方にいた、または、TMO に判断を仰いだなどの場合)、残り時間を示す時計の表示が0.00 秒をまわってしまった場合は、どうなるのか?
4. 最後に、チームがコンバージョンを行うことを選択しなかった場合、残り時間を示す時計の表示が0.00 秒になってホーンが鳴る前に再開しなくてはならないのか? または、残り時間を示す時計の表示が0.00 秒になる前にボールがタッチに出てラインアウトとなった場合、0.00 秒よりも前でも後でも形成されなくてはならないといった、他のプレーの再開の原則と同じ原則が適用されるのか?

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング:

7人制における以前の解釈と同様に、以下の解釈が15人制にも拡大適用される:

トライというものは、レフリーが与えるまで成立しない。コンバージョンを行わないという判断は、トライをしたプレーヤーからレフリーに伝えられなければならない、その際は、トライが与えられた後、かつ、残り時間を示す時計が00.00秒になる前に、「ノーキック」と言う。レフリーがTMO判定を用いた場合は、時計が止められる。

一旦コンバージョンを行わないと決めたら、レフリーはキックオフを与える。キックオフは、プレーヤー達が00.00秒の時点で準備ができているか否以下に関わらず、行われる。

以上

日ラグ協発第 14-457 号

平成 26 年 11 月 26 日

関東ラグビーフットボール協会

会 長 貴島 健治 様

関西ラグビーフットボール協会

会 長 坂田 好弘 様

九州ラグビーフットボール協会

会 長 徳田 昇 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 矢部 達三



**「競技規則 15.5 および 16.3」についてのルーリング 2014-4 (競技規則の確認)
(通達)**

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、IRB (現、ワールドラグビー)よりこのほど、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようお願い申し上げます。

敬具

記

イングランド協会からのルーリング要請

イングランド協会は、競技規則に関する掲題の 2 つの項目について、7 人制および 15 人制両方の競技における明確化を求めた:

1. タックルされたプレーヤーが、ボールを放す前に体の位置を動かした
2. 「ヘッドロール」または「ボディロール」によって、ラックをクリアアウト(※訳注参照)

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング:

疑義を避けるため、競技規則は 1 つしかない。以下に記された解釈が、7 人制と 15 人制の競技の両方に適用される;

タックルされたプレーヤーに関しては、ボールを放す前に体の位置を動かせば、競技規則 15.5(a)および15.5(e)を考慮すべきである:

- (a) タックルされたプレーヤーは、ボールの上に、ボールを覆って、または、ボールに近接して横たわって、相手側がボールを獲得するのを妨げてはならないし、プレーの継続のため、直ちにボールをプレーできるようにしなければならない。
- (e) 立っている相手プレーヤーがボールをプレーしようとする場合、タックルされたプレーヤーはボールを放さなければならない。

「ヘッドロール」または「ボディロール」によるラックのクリーンアウトに関しては、競技規則で特に言及している項目がない。しかし、競技規則 10.4 (e) の「危険なプレー、および、不行跡」をタックルおよびクリーンアウトのどちらにも適用すべきである;

「危険なタックル: いずれのプレーヤーも、相手側プレーヤーに早すぎるタックル、遅すぎるタックル、または危険なタックルをしてはならない。

いずれのプレーヤーも、相手側プレーヤーの肩の線より上へタックル、あるいはタックルしようとすることは、たとえタックルが肩の線より下から入ったとしても、してはならない。相手の頸部、または頭部へのタックルは危険なプレーである。

罰: ペナルティキック

従って、「ボディロール」は認められるが、「ヘッドロール」は反則として扱われるべきである。

以上

※訳注

「ヘッドロール」:

相手をどけるため、首を持って相手を捻り回すようにして剥がすプレー

「ボディロール」:

相手をどけるため、身体を持って相手を回すようにして剥がすプレー

平成 26 年 11 月 26 日

関東ラグビーフットボール協会
会 長 貴島 健治 様
関西ラグビーフットボール協会
会 長 坂田 好弘 様
九州ラグビーフットボール協会
会 長 徳田 昇 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 矢部 達三



「競技規則第 6 条 (試験実施ルール)」についてのルーリング 2014-5 (競技規則の確認)
(通達)

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、IRB(現、ワールドラグビー)よりこのほど、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようお願い申し上げます。

敬具

記

イングランド協会からのルーリング要請

イングランド協会は、以下に記す、HIA プロトコルの運用に関する明確化を求めた:

1. **HIA 終了後に戻らなかったプレーヤーに関する早めの通知**
TMO プロトコルのもとでは、HIA を受けるプレーヤーと一時的交替をしたプレーヤーがゴールキックを行うことはできない。HIA 評価を受けたプレーヤーが 10 分以内に戻らない場合は、一時的交替が正式な交替となり、一時的交替プレーヤーがゴールキックを行うことができるようになる。第 4 マッチオフィシャルに、評価を受けるプレーヤーが 10 分の間に戻らないことが伝えられた場合、まだ 10 分を経過していなくても、その交替プレーヤーがゴールキックを行うことができるのか?

2. 一時的交替プレーヤーが退場となった場合
一時的交替プレーヤーが退場となった場合、HIA 評価を受けたプレーヤーがその試合でそれ以上プレーすることはできない、すなわち、他のプレーヤーの交替プレーヤーになることはできないと理解している。
この理解が正しければ、一時的交替プレーヤーとして出ていたプレーヤーにレッドカードが出された場合、そのチームの2名のプレーヤーが、以後、試合に出ることができない状況になりえる。これは公平とは思えず、フロントロープレーヤーが一時的交替をしたときにその交替プレーヤーが退場になった場合に認められていることと矛盾する。この理解は、正しいか？
3. HIA の結果は陰性で、試合に戻らなかったプレーヤー
すでに戦術的な交替をしたプレーヤーも、HIA 評価を受けるプレーヤーの一時的交替プレーヤーになれる、と理解している。
プレーヤーの HIA 評価の結果が陽性だった場合は、プロトコル上、その一時的交替プレーヤーが一度戦術的交替をしている状況であっても、その一時的交替が正式な交替となることは、明確である。
はっきりしないのは、プレーヤーの HIA 評価の結果が陽性ではないが、そのプレーヤーが 10 分以内戻らず、一時的交替プレーヤーが一度戦術的交替をしている、すなわち、HIA を受ける、あるいは、出血を問えるプレーヤーとの交替以外に、試合に戻ることができない場合である。
HIA の結果が陽性ではなかったプレーヤーが 10 分以内に戻らない場合は、どうするべきか？ いかなる状況であれ、一時的交替が正式な交替となるのか？一時的交替プレーヤーがまだ試合に出ていない交替要員なら何も問題ないが、戦術的交替をしているプレーヤーの場合は問題となる。

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング:

1. 第4 マッチオフィシャルに、HIA を受けたプレーヤーが戻らないことが伝えられた場合、10 分を経過していなくても、交替プレーヤーがゴールキックを蹴ることができるようになる。
2. その理解は正しくない。
HIA の一時的交替プレーヤーが退場となった場合、HIA 評価を受けたプレーヤーが、以後、その試合に出ることができるようになる、すなわち、HIA を受けたプレーヤーが他のプレーヤーの交替プレーヤーとなることができる (ただし、HIA の結果が陰性だった場合)。

3. HIAの結果が陰性だったプレイヤーはプレーに戻らなければならない、交替プレイヤーは下がらなければならない。

以上

日ラグ協発第 14-459 号

平成 26 年 11 月 26 日

関東ラグビーフットボール協会
会 長 貴島 健治 様
関西ラグビーフットボール協会
会 長 坂田 好弘 様
九州ラグビーフットボール協会
会 長 徳田 昇 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会
専務理事 矢部 達三



「競技規則第 13 条」についてのルーリング 2014-6(競技規則の確認)
(通達)

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、IRB(現、ワールドラグビー)よりこのほど、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

香港協会からのルーリング要請

状況:

A チームが 22 メートルライン地点でのドロップアウトを行った。ボールがラインを越えず、タッチに出る前にフィールドオブプレー内の地面に落ちた。22 メートルライン地点で行われたドロップアウトから約 8 メートルである。

この場合に適用されるアドバンテージは、何か？攻撃側ではないチームが、ボールがタッチに出た地点でのラインアウトを選択することはできるのか？スクラムまたはキックの選択は再びあるのか？

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング:

競技規則 13.13 (a)が適用される。

「ボールが22メートルラインを越えない場合は、相手側チームは次の2つのうち1つを選択する。

- ・ふたたびドロップアウトを行わせる、または、
- ・22メートルラインの中央においてスクラムを組み、ドロップアウトをしなかった側がボールを入れる。」

アドバンテージは、相手側がボールをタッチに出る前にプレーした場合にのみ、適用される。

以上